



三十段飾り千体の雛祭り(世界の民族人形博物館)須坂市提供



第 3 号  
平成 26 年 3 月 5 日  
発行 須高地区保護司会  
編集総務部

## ご挨拶

須坂市長 三木 正夫



須高地区の更生保護関係の皆様には、平素から行政の各般にわたり、温かいご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

安全で安心して暮らすことのできるまち、子どもが健やかに育つ地域社会は、全ての人の願いです。将来を担う子どもたちは、地域社会の宝であり、行政と地域が一体となって守り、健やかに成長させていくことが、私たち大人の使命であり責務であると痛感しております。

そのような状況のなか、保護司の皆様には、日頃から研修会等を通じ自己研さんを積まれ、保護観察を受けていたる成人や少年への指導、被収容者や少年院入所者の帰住先の調整等、不幸にして犯罪や非行を行つた人々への更生保護活動はもとより、街頭啓発活動や講習会の開催などによる、青少年の健全育成や非行防止のほか、犯罪のない明るい社会づくりに向けた「社会を明るくする運動」など、さまざまな活動

まいります。

自分だけが幸福になれる世の中はありません。これからも、皆様方のご支援・ご協力により、犯罪や非行の現実から円滑に立ち直りができる、更生保護の目的が達成されますよう願つてやみません。

今後ともなお一層のお力添えをお願い申しますとともに、須高地区の更生保護関係団体の皆様のますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

にご尽力をいただいておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

須坂市では、平成 23 年度に「一人ひとりが輝き、磨かれた『ほんもの』の魅力あふれるまち須坂」を目指し「第 5 次須坂市総合計画」を策定しました。この「前期基本計画」の中では、3つの基本理念、7 つの基本目標を実現するため、4 つの重点プロジェクトを掲げ、取り組みを進めています。その中

で「児童・青少年健全育成の推進」や「多様な活動主体参画による地域社会づくりの推進」といった具体的な施策を定めておりますが、保護司会の皆様の活動と大きく関係のある施策であります。保護司会の皆様をはじめ、さまざまの方々のご協力のもと、人づくり、子どもが縁の社会づくりに取り組んでまいります。

## 須高地区保護司会

会長 葦澤 義文



「犯罪統計」によれば、平成二十五年

中の刑法犯認知件数は、全国・県内とも

前年より4・4%減少しました。ことに県内は昭和五十二年以来36年ぶりに

1万5千件を下回りました。これには種々の要因が考えられますが、犯罪予防活動の成果もあると思われます。

一方、知能犯（特殊詐欺等）、風俗犯は増加しています。更に、再犯者の増加が懸念されています。

さて、昨年六月に刑法と更生保護法の一部改正が国会で成立し公布されました。この改正により、刑の一執行猶予制度が公布後三年以内に施行されることになりました。この制度の適用対象者は、初入者と薬物使用事犯者です。殊に薬物使用等事犯者に対する担当保護司の役割は重要であり、粘り強く精神面で対象者を支えていくことが必要になります。保護司各自の研鑽は元より、各機関と連携して対応する「チーム処遇」が求められます。

本年も、地域住民、関係機関、団体と協働して、犯罪や非行の起きにくい

社会の実現とを目指して活動を推進していきたいと思います。

## 須高更生保護女性会

会長 横山 芳美



子供達のすこやかな成長を願つて、井上地区女性会は、園児の林檎狩を行なつ

ています。この活動を始めて七年目、

井上・千曲両保育園の年長さん五十一名を招待するのです。十一月二十日、

天気予報では「雨風強し」とのこと、ところが当日は小春日和。私達六名は

胸をなでおろし、畠にシートを敷き、林檎の皮をむき到着を待ちました。

「きました」「きました」リュックを



林檎狩を楽しむ子供たち

背負つて可愛らしい帽子、元気いっぱいの笑顔、とりやすい場所にならしておいた林檎を二ヶづつ収穫することができます。「さあ、おやつですよ」と私達の声に、先生方から手渡された

林檎をほおばり「おかわり」「おかわり」との声に私達も一緒にいただきました。その美味しかったこと。園児の後ろ姿が見えなくなる迄、手を振つて見送りました。

と思ひます。

背負つて可愛らしい帽子、元気いっぱいの笑顔、とりやすい場所にならして活動を深め、安全で安心して暮らすことができる社会を築いていく事ができる

とのできる社会を築いていく事ができるよう今年一年活動を進めてまいりたい

## 須高地区更生保護協力事業主会

会長 林 豊美



平成20年に、犯罪者の立ち直りと再犯防止の両方を目的とすることを明確に位

置づけた新法「更生保護法」が施行され、行政と更生保護団体、企業などがそれぞれの役割を果たし、相互に連携強化することが求められました。人が犯してしまった罪をつぐない、社会の一員として立ち直ろうとするとき、本

人の強い意志や行政機関の働き掛けのみならず、地域社会の理解と協力が不可欠だと思います。

そこで、保護司の皆様はじめ、多くの更生保護ボランティアと呼ばれる方々の協力の下、須高地区更生保護協

### 第六十三回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 受賞者

◎県コンテスト

◆小学生の部

▽優秀賞 上原梨瑚＝日野6 清水美怜＝仁礼4

◆中学生の部

▽最優秀賞 寺沢舞央＝東2  
▽入選 一色鞠子＝墨坂1 寺島章仁＝小布施中2

◆須高コンテスト

◆小学校の部

▽最優秀賞 森山陽＝豊洲6  
▽優秀賞 上原梨瑚＝日野6 清水

美怜＝仁礼4

▽佳作 井出愛美＝日野6 長谷川璃子＝仁礼4 安西葉音＝仁礼4

◆中学生の部

▽最優秀賞 一色鞠子＝墨坂1  
▽優秀賞 寺沢舞央＝東2 寺島章

仁＝小布施2

▽佳作 鬼石諭志＝常盤2 小坂泰志＝墨坂1 中村悠斗＝墨坂3 中

谷美ふゆ＝墨坂3 山崎梨央＝小布施3 返町明日香＝高山1 金田翔太郎＝相森3

## 第63回「社会を明るくする運動」 県・須高作文コンテスト

平成25年度、県・須高作文コンテストが実施され、二月一日に表彰式が行なわれた。県作文コンテストでは最優秀賞に寺沢舞央さん（東中二）、が受賞された。須高作文コンテストでは最優秀賞に一色鞠子さん（墨坂中一）、森山陽さん（豊洲小六）が受賞された。今回は寺沢舞央さんと森山陽さんの作文を紹介します。

25年度県作文コンテスト最優秀賞

### あいさつは 大切だ

東中学校二年

寺沢  
舞央

そこで私は思った。なぜあいさつは

大切なのか？。その答えをつい最近、私は知ることができた。

毎年、私の中学校の二年生は職場体験学習という進路学習を行なつている。それをふまえて、ある会社の社長さんが講演をしてくださった。その社長さんは一言でいうとすごい人だった。何がすごいかというと、あいさつがとてもいいきいきとしているのだ。そして世の中の全てを知っているかのように私達に人生の秘訣を教えて下さった。

「あいさつは大切だ」  
よく、大人が口にする言葉だ。でも、その言葉に確かに証拠はなかつた。私は小さい頃からあいさつをしていたし、親や先生にもあいさつの大切さをたたきこまれている。

そんなこともあつておかげ様で私は登下校中行き合つた人にはあいさつをする習慣がついている。中学校では先生や仲の良い友達には自分からあいさつをするように心がけている。

例えれば特に納得したのは、プラス思考は人生成功の共通点だとおしゃつっていたことだ。確かにそうだと思つた。マイナス思考だと、やる気もわいてこないし世の中が暗くみえてしまう。それを一転してプラスに考える

「あいさつは相手の存在を認める事」  
私はその社長さんの言葉を聞いた時、今まで何となくしてきたあいさつの本当の意味を知ることができた。あいさつをしない世界中の人に教えたくなつた。これからもあいさつを続けようと思った。  
しかし、ある日、下校中に少しショックな事がおこつた。私がいつも通る道に小さな工場がある。そこで最近仕事をしていると思われる六十歳くらいのおじさんを見かけるようになつた。あいさつの意味を知つて以来、相手の存在を認めようと前よりあいさつを自分で分からするようになつた。だからおじさんにもあいさつをした。大概、あいさつをしたらされた人は返してくれた。

まず、びっくりして何でおじさんからあいさつをしてくれたのだろうといふ疑問がでてきた。でもそれを打ち消すほどの嬉しい気持ちがどんどんふくらんでいった。

おじさんの心に何がおこつたのかは分からぬ。でもおじさんがあいさつをしてくれて私もあいさつを返して私が嬉しくなつたのは事実だ。

あいさつは不思議なパワーをもつていて。そして人と人とのつながりがある。よく大人が口にする言葉は確かにいる。でもやはり私の顔を見た後また仕事にとりかかってしまう。それを

「あいさつは大切だ」

と未知なる力がおなかの底からわいてくる。この力が人生成功の共通点なのだ。そしてあいさつはなぜ大切な無視をされるということを分かりながらあいさつをするのは少しモヤツするけど、ここでおじさんにあいさつするのをやめたらおじさんの中にある良心を無視することになつてしまふ。だから、あいさつをする時は（今日あいさつを返してくれたら…）なんてプラスに考えながらした。しかし予想もしていなことがおきた。私が下校しているとどこからか「こんにちは」と声がした。声がした方を見るとなおおじさんだつた。一瞬何がおきたのか脳がついていけなかつたが、「こんにちは！」と言つた。

だからおじさんは私に気付いたのにまた仕事にとりかかってしまった。その日は、私の声が聞こえなかつたのかなあとか色々考えた。

私はおじさんに会うたびにあいさつをした。でもやはり私の顔を見た後また仕事にとりかかってしまう。それを

## 25年度須高作文コンテスト最優秀賞

**BBS**

豊洲小学校六年

森山 陽

皆さん、BBSと言う活動を知っていますか。

ぼくは、今からBBSについて書きます。ぼくの母は、二十六年前にBBSと言ったボランティアをやっています。BBSと言うのは、ビッグブラザーアンドシスターズの頭文字を取つて、少年院（色々な罪を犯してしまった少年たちの立ち直りをさせる場所）を出て、保護司さん（立ち直りを見守る人）の預かっている少年たちに、兄や姉のように接するボランティアです。基本的には、少年一名に付き一名のBBS会員が対応します。時間を見つけて、少年に会いに行つたり、電話をかけたりして連絡を取り合つのです。

ここからは、母からの話です。

「BBSと言う会は、全国にあり、法務省の管かつで、補助金を頂き、後は、賛助企業と賛助会員の寄附で成り立っています。その予算内で、色々な行事

を考え、少年と地域の人や会員の家族や友人で行事をやつていきます。夏にはキャンプ。海の近くでテントを張り、バーベキューをしたり、スイカ割りをしたり、キャンプファイヤーをしました。秋には、登山をしました。冬は、クリスマス会を企画をして、ケーキを食べたり、プレゼントを渡したりします。普通に生活している人には珍しい事であつたり、懐かしいものだったりします。最初は、バカらしいと感じていた険しい顔が、何回か行事に参加して、顔見知りが増えていくと、心から笑顔を見せてくれます。この時、同じこの世に生を受け、ちょっと生きる道が違つただけで、心の奥の部分は、みんな一緒なんだと感じました。」と話してくれました。

ぼくには、少し難しい事が多く、分かりづらかったです。

毎日、テレビで放送されている悲しい出来事を見たり聞いたりする度に、世の中には、悪い事をする人がいるんだなあとしか思つていませんでした。母の話を聞いていく内に、誰もがお母さんのお腹からオギヤーと産まれてきたことは、おなじなんだなと思いました。その後の生活の中で、生きていきましたが、変わつてしまふけど、そのやつ

た。秋には、登山をしました。冬は、クリスマス会を企画をして、ケーキを食べたり、プレゼントを渡したりします。普通に生活している人には珍しい事であつたり、懐かしいものだったりします。最初は、バカらしいと感じていた険しい顔が、何回か行事に参加して、顔見知りが増えていくと、心から笑顔を見せてくれます。この時、同じこの世に生を受け、ちょっと生きる道が違つただけで、心の奥の部分は、みんな一緒なんだと感じました。」と話してくれました。

ぼくは、その事を深く心に受け止め、誰にでも優しく、誠実に接していくようにこれからも努力していくこうと思います。人を見た目で判断するのではなく、その人の心中をよく読み取り、感じることのできる人間に成長していきたいと思います。来年は中学生です。事の善悪のわかる人になりたいです。

なぜ彼等が違法行為を行なつたかを考える時、そのほとんどの原因は、その育ちにあるように思われます。離婚により母子家庭になつて経済的に苦しい生活の中、母親が多忙なため家庭での会話も少なく、寂しい毎日から、同じ境遇の者が寄り集まつて非行におよぶようになつた者や、両親共働きで、子どもが放任されたり、保護者の養育能力が低いため、子どもが他の家庭や友達に依存して、家庭に帰らなくなつたりする例もありました。

子どものちからだけでこの境遇を開いていくことは並大抵のことではありません。事件を起こした当人の問題もさることながら、幼少よりしつかり育てられなかつた彼等の実情を思えば、彼等もまた被害者であると言えます。

## 事例報告 支援の連携をこそ

保護司 吉田 悟

保護観察となつて私のところに来訪した人の中には成人も何人かいました

が、多くは少年でした。

窃盗や暴力が中心で、飲酒運転事故や放火という事件もありましたが、一人での犯行は少なく、仲間数人との共犯で罪悪感があまりないと感じました。

なぜ彼等が違法行為を行なつたかを考える時、そのほとんどの原因は、その育ちにあるように思われます。離婚により母子家庭になつて経済的に苦しい生活の中、母親が多忙なため家庭での会話も少なく、寂しい毎日から、同じ境遇の者が寄り集まつて非行におよぶようになつた者や、両親共働きで、子どもが放任されたり、保護者の養育能力が低いため、子どもが他の家庭や友達に依存して、家庭に帰らなくなつたりする例もありました。

子どものちからだけでこの境遇を開いていくことは並大抵のことではありません。事件を起こした当人の問題もさることながら、幼少よりしつかり育てられなかつた彼等の実情を思えば、彼等もまた被害者であると言えます。

今、障がいのある子ども達の養育については「早期発見、早期支援」を国

が中心になつて推し進めていますが、事件を起こす可能性もまた「早期発見、早期支援」が必要ではないでしょうか。

実は、社会福祉による母子家庭の支援や、学校における個別指導や民生児童

委員の家庭訪問等々、支援がなされていきます。

そうした、いわば早期支援の活動に對し、保護司がどう連携していくかが今後の課題の一つになるのではないかと感じています。

## 初めての交通対象者

保護司 町田 福司

何人目の対象者であろうか？ 初めて交通の少年を受け持つ事となつた。交通関係は初めての事であり、学習ブックに添つて進めるようにとの事だが、私が免許を取得したのはもう50年以上も前の事で、取得時から毎日運転しているとは言え、あまり道交法等意識した事もなく、通りいつぺんの事しか覚えておらず、詳しい事はほとんど記憶になく、どうしたら良いのか分からな  
いまま初めての面接を迎えた。

A君は当時16才、二ヶ月程前の夜、自宅で友人と遊んでいるうち、つい母親の車に乗り出かけてしまつた。車の運転は初めての事だったが意外とスマートに運転が出来、「車の運転なんてこんなものか？」と思いつながら、夜の長野市内を事故もなく走っているうちにポートホールカーに止められ、無免許運転が発覚して保護され、審査の結果、

保護観察処分となり私が担当となつた。

A君には少々の非行歴があるものの、性格はおとなしく優しい一面をもつてゐるが、母親や高校生の姉とはほとんど話もせず、顔も合わせないと

いう日々が続いており、家の中は息苦しいとの事、そんなA君も月二回の面接には約束の時間にきちんと来訪し、

## 部会報告

研修部会 副部会長 市村多喜子

### 総務部会

部会長 竹前 郷史

今年度の研修は、四回実施致しました。二回目は「段階的、類型別処遇について」三回目は「社会貢献活動について」三回

二回目は「社会貢献活動について」三回

日本が高い水準の治安は、世界一安全な国として、誰しもが認めるところであります。この度県警で刑法犯が、昭和五十二年以來、一万五千件を下回ったと報道された。その反面、刑務所出所後、帰る場所もなく、頼る人も仕事もないなど、困難な状態が続いている。戦後は高度経済成長を目指してきましたが、人間関係の希薄さ、無関心、家庭の孤立化と進み、機能が低下しました。経済再生はもとより、一度過ちを犯した人でも、やり直しのきく社会・地域社会の連帯感の回復・家庭の絆の強化が必要かと思ひます。

また、以前の公開ケース研究会をな

くし、「社会を明るくする運動」の一環としての講演会が、高山村公民館において「二つの道」のビデオ視聴と、小林雅彦先生による「君は感動を求めて生きているか」と題して、御講演をいただきました。「中学生に語つてしたこと」の副題とは言え、私達大人にもタイトル通り、とても感動的なお話を

いが受けられますか？」との話があり、警察署交通課の指導をいただき、今はバイクの免許を取る為がんばっているようだ。

▽須高地区小中学校・作文コンテストの実施のお願い（八月）  
▽第四十三回須高地区講演会（八月）以上

▽須高地区保護司会総会（五月二十四日）  
▽地域別定例研修会開催（年四回）  
▽社明運動の活動日程と街頭啓発活動の実施（七月・保護司・更生女性会、協力事業主会の参加）

△須高地区保護司会総会（五月二十四日）  
△地域別定例研修会開催（年四回）  
△社明運動の活動日程と街頭啓発活動の実施（七月・保護司・更生女性会、協力事業主会の参加）

来年度は地区外研修の年に当たります。富山県にあります民営デイケアハウスと刑事施設が候補に上げられていますが如何でしょうか。皆様の御参加をお願い致します。

## 犯罪予防活動部会

部会長 佐藤 友一

部会では、毎年「社会を明るくする運動」の意識向上の為に、小中学生を対象に作文コンテストを実施しています。

須 高 護 保 よ だ り

今年度は応募数（二一五点）は昨年より減でしたが、内容深い作文ばかりであった。テーマで一番多かったのは、いじめに関する内容で、次いであります。いじめは社会問題の一一番に揚げて、国レベルで取り組んでいますが、一向に改善の兆しが見えてこない、それどころか新聞報道では、いじめが原因とされる不登校が三年振りに増加しているとの事である。このニュースに愕然としたのは私だけではないだろう。またこの報道に無反応でいられる社会であつてはならない。現に今でも、ひとり、いじめに悩み、苦しみ、泣いている子供は確かに居るのだ。

心の善悪は環境で作られる。  
争いの絶えないこの世界、物欲に右往

解を得ながら、対象者の雇用に結びつます。

厳しい情勢下ですが、事業主のご理解を得ながら、対象者の雇用に結びつます。

左往している大人達、そうした社会の疲弊が子供の心に伝わり、それがはけ口となつていじめへと走るのだ。

子供は大人社会の犠牲者であつてはならない。物から心豊かな社会へと、以前から言われているが、どう考えてもその一言に尽きる。今、私の机の上に子供達の作文が重く積まれている。

## 協力組織部会

部会長 小柳 邦義

更生保護に協力する組織団体の育成や支援が目的の当部は、今年度「育成部会」から、県内各地区で多く使用され、かつ分かりやすい、「協力組織部会」に名称を変更し活動をしました。

大きな柱の一つであります更生保護協力事業主会については、今年度長野市保護観察所で、保護観察対象者等の就労の促進を図る目的で、県内の協力雇用主名簿の作成を行いました。

## 第五十九回 長野県更生保護大会

第五十九回

### 長野県更生保護大会

平成二十五年十月十八日、中野市市民会館において、第五十九回長野県更生保護大会が開催されました。初めに、

長野県保護観察所長表彰  
片桐住子（更女）  
長野県保護観察所長表彰  
町田榮司 竹内三男 内山信行  
荒巻照子 斎藤友吉 菊地健造  
野平芳一

### あとがき

卷頭言をご寄稿頂きました三木須坂市長様に心より御礼申し上げます。更生保護事業に対する心温まるお言葉を賜わり、活動に携わる者にとって大きな励みになります。

県作文コンテストでは、東中学校2年年の寺沢舞央さんの作文が最優秀賞3点の一点に入りました。須高地区のレベルの高さを物語るものであり嬉しい限りです。

保護だよりを通して、地域の皆様に少しでも保護司の活動をご理解頂ければ幸いです。

く方策を、事業主会と連携を取り、進めたいと思います。

おめでとうございます（敬称略）

全国保護司連盟理事長表彰  
業田明子

関東地方更生保護委員会委員長表彰  
市村多喜子

長野県知事表彰  
長野県知事表彰  
片桐住子（更女）

長野県保護観察所長表彰  
荒巻照子 斎藤友吉 菊地健造  
野平芳一

長野県保護観察所長表彰  
片桐住子（更女）

長野県保護観察所長表彰  
片桐住子（更女）